

技術・家庭科に関する意識調査[†]

小森 祥一*・鈴木 道義**

栃木県総合教育センター*

宇都宮大学教育学部**

平成14年4月から小・中学校において新学習指導要領が完全実施された。今回の改定では、「木材加工」、「電気」、「家庭生活」、「食物」など11領域で構成されていた扱いを、「技術」及び「家庭」の2分野で構成することと改められた。技術分野は「A技術とものづくり」及び「B情報とコンピュータ」の2つの内容で構成し、家庭分野は、「A生活の自立と衣食住」、「B家族と家庭生活」の2つの内容で構成することとし、大きく学習内容の統合が図られた。¹⁾

そこで、新学習指導要領の内容を履修した3年生およびその保護者を対象に本教科に関する意識調査^{2) 3)}を実施し、教科観について探ってみた。

今回の調査から、本県の生徒、保護者が持つ本教科に対する意識と現在抱えている問題点が明らかになった。また、これらの調査結果から本教科の持つ意義とこれからの方向性及び指導の在り方を再確認することができた。

キーワード： 栃木県、技術・家庭科、教科意識、教科の有用感、身に付いた資質・能力

1. 研究の目的・調査方法

(1) 調査の目的および対象

この調査は、本県生徒及びその保護者の技術・家庭科に関する教科観について調査し、「これまで技術・家庭科が果たしてきた役割」について検証するとともに、これからの技術・家庭科に求められる方向性を明らかにすることである。

調査対象校は、栃中教研技術・家庭科部会各支部から2校ずつ選出した、計20校である。

調査対象者は中学3年生及びその保護者である。実施学級は、当該学年(3学年)から1クラスを選出した。その内訳は以下のとおりである。

- ① 中学3年生 600名 (男子309名, 291名)
- ② 保護者 529名 (父親199名, 母親330名)
- ③ 保護者の年齢 保護者の年齢は以下の表のとおりである。

表1 保護者の年齢層

		人数(人)	割合(%)
1	25～29歳	1	0.2
2	30～34歳	4	0.8
3	35～39歳	56	10.6
4	40～44歳	208	39.3
5	45～49歳	184	34.8
6	50～54歳	66	12.5
7	その他	10	1.9

[†] Shouichi KOMORI* and Michiyoshi SUZUKI** :
Research on Attitude toward Technology Education
and Homemaking Education of Junior High School
Students and Their Protectors.

* Tochigi Prefectural Education Center

** Faculty of Education, Utsunomiya University

(2) 調査の期間および回収期日

調査期間は、平成16年1月8日～2月6日であり、回収期間は、平成16年2月9日～2月27日であった。

2. 調査内容

調査に当たっては、生徒用と保護者用の2種類の質問票を用意した。

【生徒質問票】

教科およびその内容に関する好き・嫌いに関する37項目について「好き」「どちらかといえば好き」「どちらかといえば好きではない」「好きではない」、教科意識(イメージ)に関する9項目についても「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」の中から最も当てはまるものはどれかを尋ねた。教科意識8項目、3年間で身に付いた資質・能力に関する22項目については、当てはまる項目全てを選択させる多肢選択法により尋ねた。(付録1参照)

【保護者質問票】

技術・家庭科履修時の製作物、製作物の利用経験、製作物の所有の有無について尋ねた。教科に関する好き・嫌いとその理由、教科意識(有用感)については、それぞれ、「好き(そう思う)」、「どちらかといえば好き(思う)」、「どちらかといえば好きでは(思わ)ない」「好きでは(思わ)ない」の中から最も当てはまるものはどれかを尋ね、「好き(そう思う)」、「どちらかといえば好き(思う)」と回答した保護者にその理由について当てはまる項目全てを選択させた。身に付いた資質・能力に関する20項目については、当てはまる項目全てを選択させた。(付録2参照)

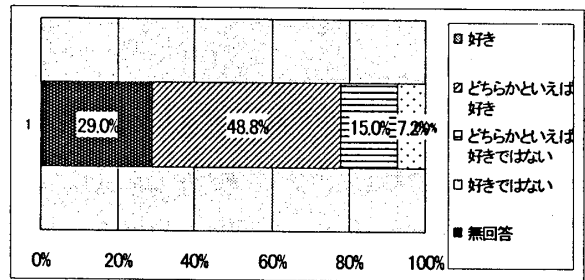
3. 調査結果と考察

(1) 生徒の意識調査

ア 教科およびその内容に関する好き・嫌い

全体600人のうち、技術・家庭科を好きな生徒は29.0%、どちらかといえば好き48.8%を合わせると77.8%の生徒が技術・家庭科の教科を好きと回答している。(図1-1)

次にどのような学習内容を望んでいるのかを技術分野、家庭分野それぞれ内容別に見てみる。いずれの分野でも選択的に履修する内容A、Bにおける項目5、6が未履修の場合は、担当教師から履修内容についてガイダンスを聞き、「学習してみたいか否か」の質問回答とする。ガイダンスの説明内容は、予め当センターで作成し、統一した説明内容とした。質問項目については、学習指導要領の各内容と照らし合わせて付録1のとおりとした。



1-1 技術・家庭科に対する好き嫌い

(ア) 技術分野

技術分野「技術とものづくり」では、③「工具や工作機器を上手に使う本立てやCDラック、小物入れなどの生活に役立つものを製作する。」の内容を「好き」、「どちらかといえば好き」と回答している

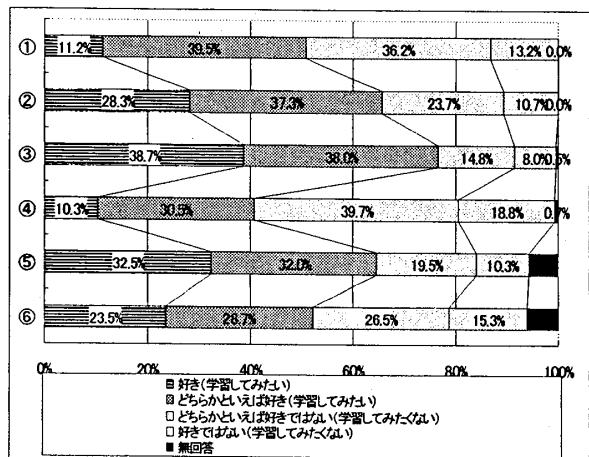


図1-2 技術とものづくりに関する好き・嫌い

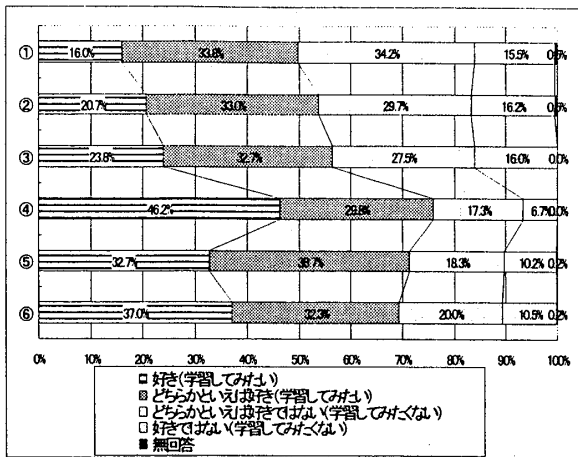


図1-3 情報とコンピュータに関する好き・嫌い

生徒が76.7%と最も多い。続いて、②「材料の特質を生かした作品の設計をする。」(65.6%)、「動く模型やロボットを製作したり、扇風機や洗濯機など電気機器の分解、組立等の実習を行う。」(64.5%)、と続く。(図1-2)

「情報とコンピュータ」については、④「閲覧ソフトを利用してインターネット上の情報を集めたりメールソフトを利用して情報を発信する。」の内容について、76.0%の生徒が「好き」「どちらかといえば好き」と回答している。⑤「デジタルビデオやデジタルカメラで撮影した動画、画像や音声等のデータを生かしたWeb(ホーム)ページやプレゼンテーションを制作する。」(71.3%)、⑥「プログラムを作成し、ロボットや動く模型などをコントロールする。」(69.3%)と続く。(図1-3)

(イ) 家庭分野

家庭分野「生活の自立と衣食住」の内容では半数を越える52.0%の生徒が②の「ハンバーグステーキや魚のムニエルなどの日常食の調理をする。」の内容を好きと回答している。「どちらかといえば好き」を合わせると79.5%の生徒が好きと回答している。以下④「室内の汚れを考えて清掃をしたり、家族が気持ちよく住むための部屋の工夫を考える。」(64.7%)、と続く。反対に、選択の内容である⑥「ショートパンツやシャツなどの簡単な日常

着の製作をする。」(44.7%)、⑤「地域の食材を生かして調理を工夫したり、お年寄りや地域の人々との会食の計画を立てて実践する。」(49.8%)は半数に満たなかった。(図1-4)

Bの「家族と家庭生活」の内容では、各内容とも「好き」「どちらかといえば好き」と回答している生徒の割合がA「生活の自立と衣食住」の内容と比べて低い傾向にある。その中で⑤「幼児の遊び道具を製作したり、幼稚園や保育所へ行って幼児と触れ合う。」の内容については66.7%の生徒が「好き(学習してみたい)」と回答しており、他の内容と比べて多い。反対に「好き」「どちらかといえば好き」と回答した生徒が半数に満たなかった内容は「家族の互いの立場や役割について知り、家族関係をよりよくするための方法を考える。」(46.6%)、「環境に配慮した生活について、自

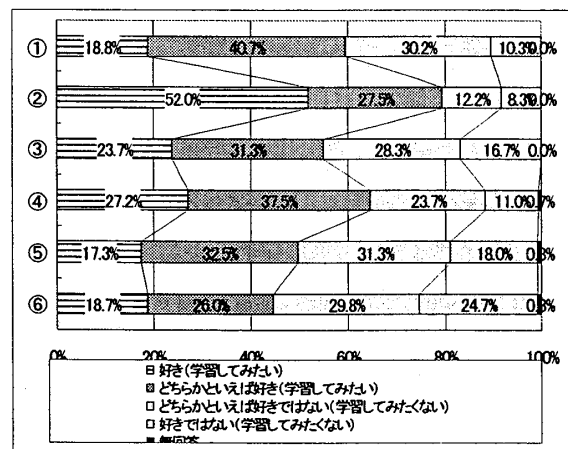


図1-4 生活の自立と衣食住に関する好き・嫌い

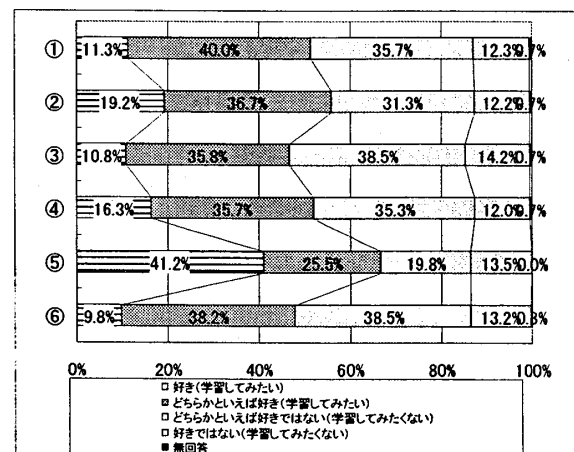


図1-5 家族と家庭生活に関する好き・嫌い

分や家族を振り返り問題点を見付け、より良い方法を考え、実行する」(48.0%)であった。これらのことから、生徒の実態の把握とその実態に応じた指導の工夫が必要⁴⁾だと思われる。(図1-5)

イ 学習内容の理解度

技術・家庭科の学習内容に関して、「よくわかる」、「だいたいわかる」をあわせて79.5%の生徒が「わかる」と回答している。反対に20%を越える生徒が「わからない」と回答している。分野別に見ると、技術分野の方が家庭分野と比べてやや「分からないことが多い」の割合が高い。(図2)

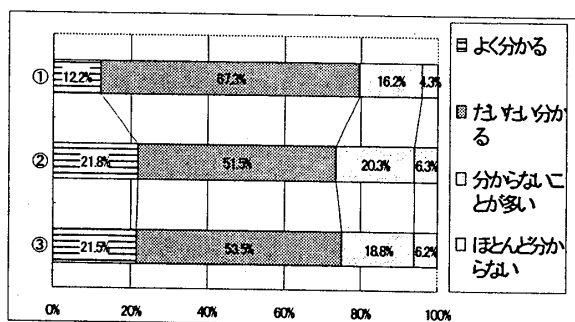


図2 技術・家庭科の理解度

ウ 教科意識(イメージ)

生徒は、図3に示すように、技術・家庭科に対して全体的に好意的な教科意識を持っていることがわかる。

①、②からは、生徒の学習意欲が高く、技術・家庭科の学習を通して生活に役に立つ技能や先進的な技術を身に付けたいと前向きな姿勢が見られる。⑥の「技術・家庭科は将来の生活に役立つ」と思うと回答した生徒は、85.8%おり、⑧の日々の生活に役立つと思っている生徒も74.5%いることから技術・家庭科の授業は生活を意識した、日々の生活に役立つ教科であるととらえていることがわかる。⑦からは受験に関係なくとも、生活をしていくためには大切な教科であると75.7%の生徒が認識しており、4人中

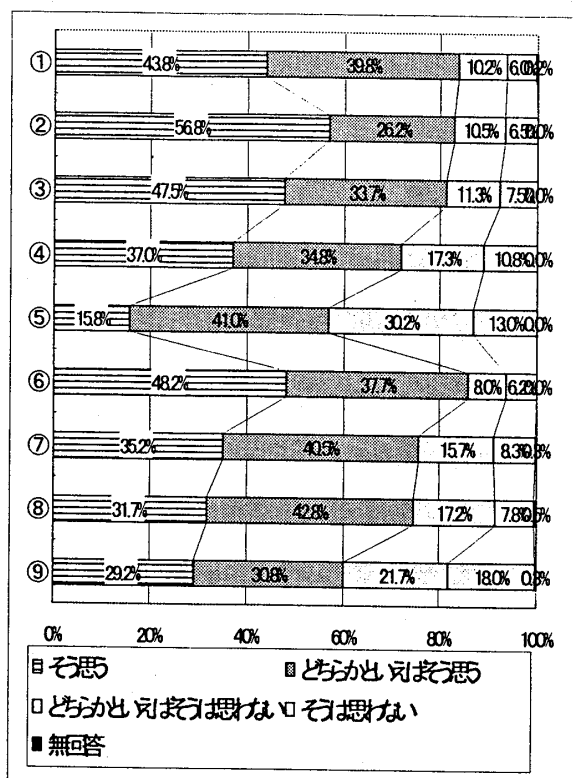


図3 技術・家庭科の教科イメージ

表2 教科イメージに関するアンケート項目

- ①技術・家庭科の学習を通して、生活をしていく上で必要な「知恵」や「技術」を身に付けたい。
- ②コンピュータなど最新の技術を勉強したい。
- ③技術・家庭科の授業は実験・実習が多いから楽しい。
- ④技術・家庭科の授業はグループ学習で互いに協力しながら学習できるので楽しい。
- ⑤生活していく中で生じる課題を解決(課題を追究)していくことは楽しい。
- ⑥技術・家庭科は将来の生活に役立つと思う。
- ⑦技術・家庭科の勉強は受験に関係なくとも大切だと思う。
- ⑧技術・家庭科の勉強は毎日の生活に役立つ勉強をしていると思う。
- ⑨実習や製作をするので手先が器用になると思う。

3人以上の生徒は、生活に役立つ大切な教科であるととらえている。

また、実験実習が多いことやグループ学習で互いに協力しながら学習をすすめていく授業形態に楽しさを(充実感)を感じている。一方で、⑤の課題を解決していく過程やその方法(問題解決的な学習)に楽しさを感じている生徒や⑨「手先が器用になる」と思っている生徒

は、どちらも約5割であった。

このことから、基礎的な知識と技能を習得を図るとともに「生活の中から学習課題を発見させる。」「技術・家庭科の学習を生活の中で実践させる場を設定する。」等、学習したことを進んで生活の場で活用する能力や態度の育成を目指した指導の工夫改善が求められているものと思われる。

エ 教科の有用感

技術・家庭科を学習することを大切だと考えている生徒は486人(81.4%)であった。(図4-1)

その理由については「家庭生活をおくるのに技術・家庭科で習ったことが役立つと思うから」と答えた生徒が大切だと考えている生徒48

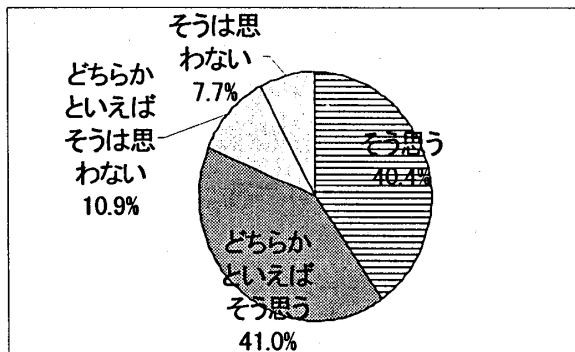


図4-1 技術・家庭科を勉強することは大切

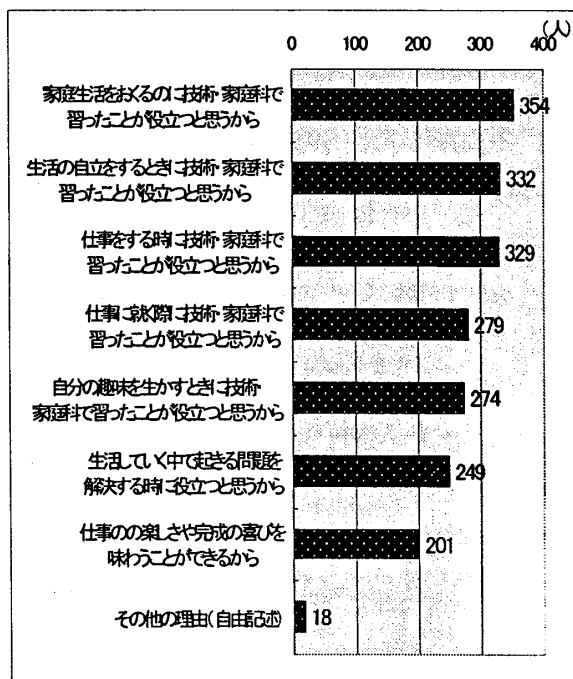


図4-2 技術・家庭科を勉強することは大切だと思う理由

6人中354人(72.8%)と最も多かった。以下「生活の自立をするときに技術・家庭科で習ったことが役立つと思う」(68.4%),「仕事をする時に技術・家庭科で習ったことが役立つと思う」(67.7%いずれも複数回答)と続く。(図4-2)

自由記述の中には、「自分の夢に役立つから。」「先生の授業が楽しいから。」「発想が豊かになり、工夫力、応用力がつくから。」「生活していく上でのルールや考え方を授業を通して身につける事ができるから。」等の回答があった。

生徒の多くは技術・家庭科が家庭生活や地域社会における生活、学校や職場における生活とのかかわりについて意識して学習に取り組んでいることが伺える。

オ 3年間で身に付いた資質・能力

3年間で身に付いた(と思われる)資質や能力について、生活の中で実際に役立った場面と直接身に付いた(と思われる)資質や能力について両面から尋ねた。役立った場面では、「コンピュータを操作するとき」が最も多く433人が回

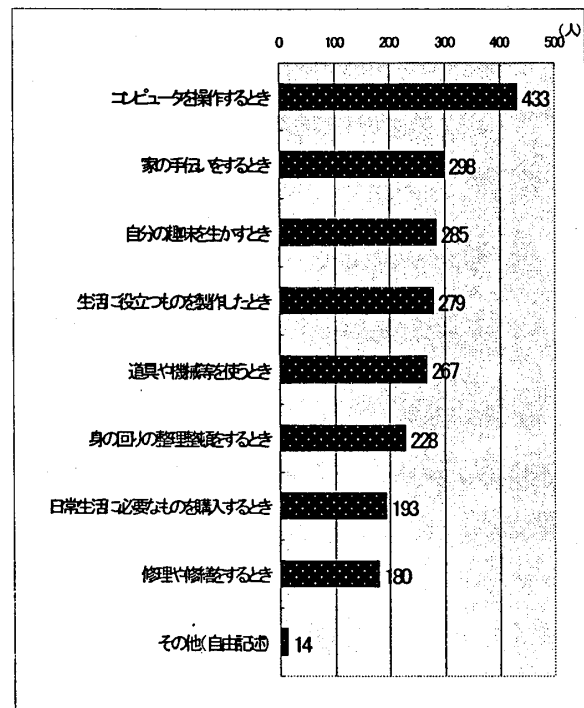


図5-1 技術・家庭科の学習内容が役立つ場面

答した。次いで「家の手伝いをするとき」、「自分の趣味を生かすとき」、「生活に役立つものを製作するとき」、「道具や機械を使うとき」と続く。(図5-1)

身に付いた(と思われる)資質や能力については、「インターネットを利用した情報のやり取りができるようになった。」が365人と最も多く、次いで「自分でものをつくることのすばらしさがわかった」と回答した生徒が320人であった。以下、「仕事の楽しさや完成の喜びを味わうことができた。」、「家族の大切さがわかった。」、「将来、自立していくための力が身に付いた。」、「パソコンを使うことに自信が持てるようになった。」、「情報を扱うマナーが身に付いた。」の

順に多かった。反対に「整理整頓するようになった。」、「手先が器用になった。」、「将来の夢を持てるようになった。」、「道具を使うことに自信が持てるようになった。」の項目について、身に付いたと感じている生徒の割合は低かった。(図5-2)

「手先が器用になった。」、「道具を使うことに自信が持てるようになった。」に関しては、近年生徒の製作経験や生活体験が乏しくなり、これまで以上に「生活に必要な基礎的な知識や技術」を身に付ける場の設定が必要かと思われる。基礎的・基本的事項については、定着するまで繰り返し指導する時間を確保することが求められているかと思われる。⁵⁾

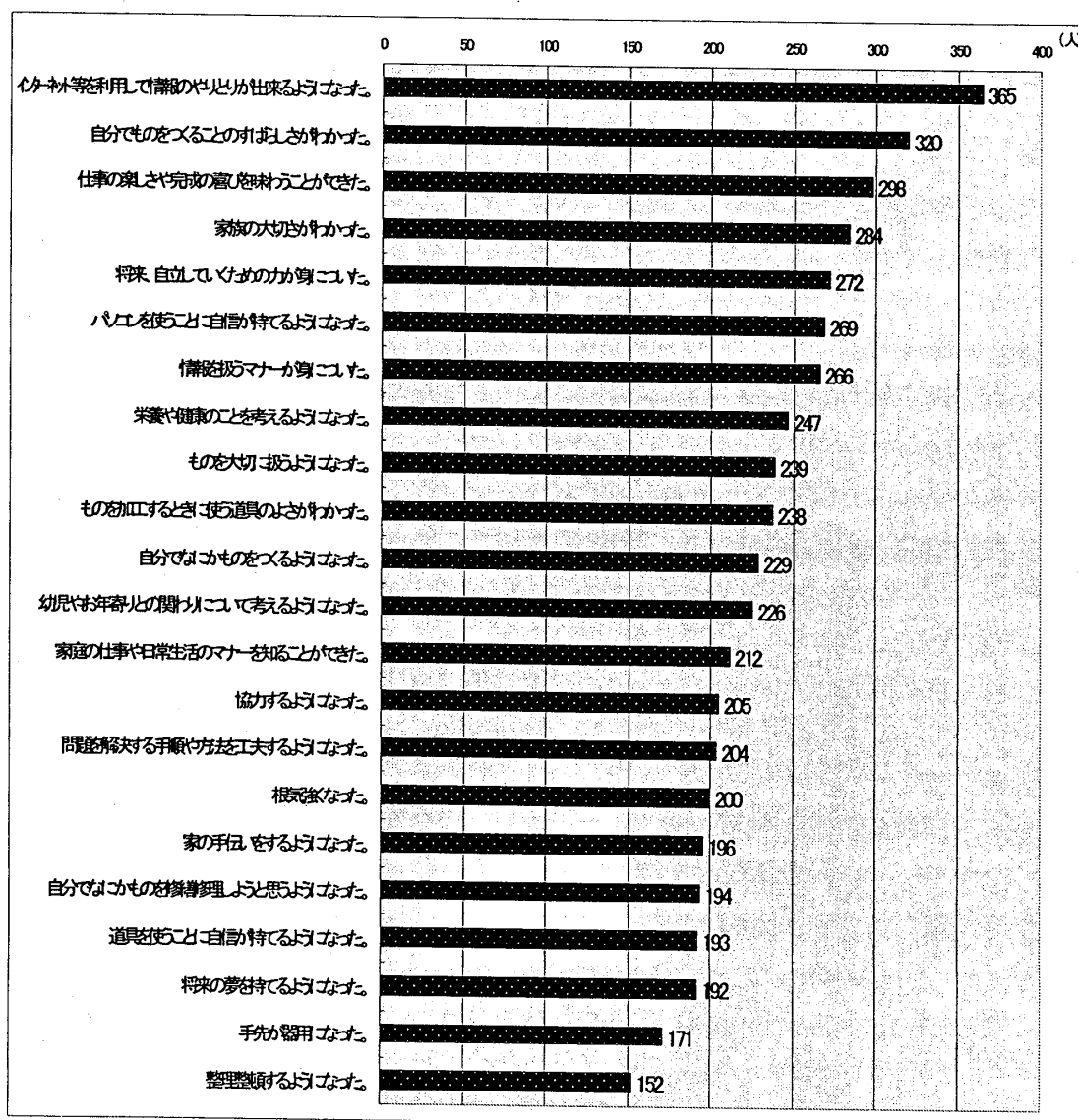


図5-2 技術・家庭科で身に付いた(と思われる)資質・能力

(2) 保護者の意識調査

ア 教科の好き・嫌い

「好きだった」、「どちらかといえば好きだった」を合わせると70.0%の保護者が技術・家庭科を好きだったと回答している。(図6-1)

「好きだった」「どちらかといえば好きだった」と回答した365人に好きだった理由について尋ねた。その結果、「技術・家庭科の学習は、実験や実習が多いから」、「木材や金属を利用したものづくりや被服の製作、調理実習ができたから」、「ものづくりが好きだから」、「生活に生かす技術や知識を身に付けることができるから」などの順に多かった。(図6-2)

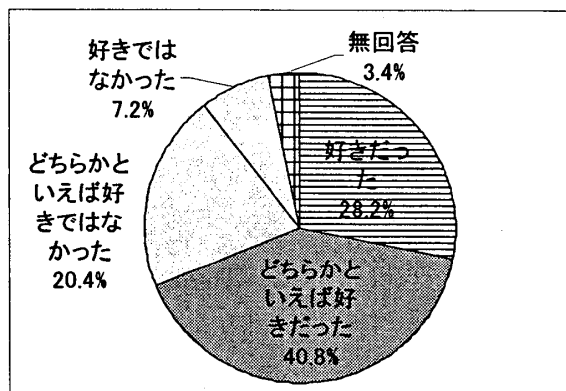


図6-1 技術・家庭科に対する好き・嫌い

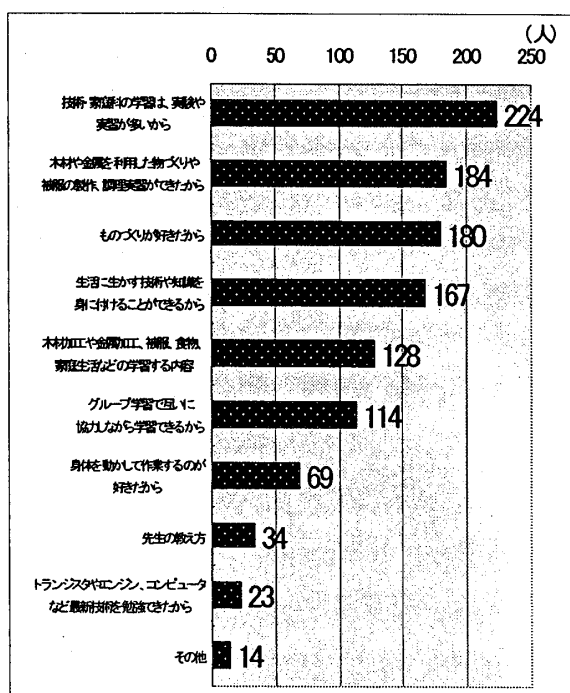


図6-2 技術・家庭科を好きだった理由

イ 技術・家庭科の教科観(重要度)

「技術・家庭科を勉強することは大切だと思う」、「どちらかといえば大切だと思う」を合わせると93.4%の保護者が技術・家庭科を学ぶことを大切だと回答している。(図7-1)

大切だと回答している保護者(494人)の理由をみてみると、「家庭生活をおくるのに技術・家庭科で習ったことが役立つと思うから」、「仕事の楽しさや完成の喜びを味わうことができるから」、「何かものを作るときや壊れたものの修理や修繕の際に役立つと思うから」等の回答が多い。このことから技術・家庭科で学習することが、生活する上で役立つと実感している保護者が多いことがわかる。(図7-2)

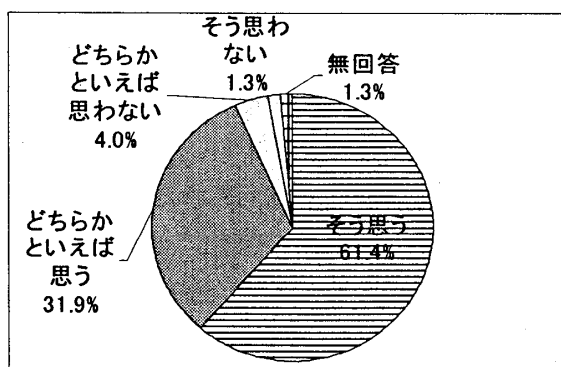


図7-1 技術・家庭科は勉強することは大切

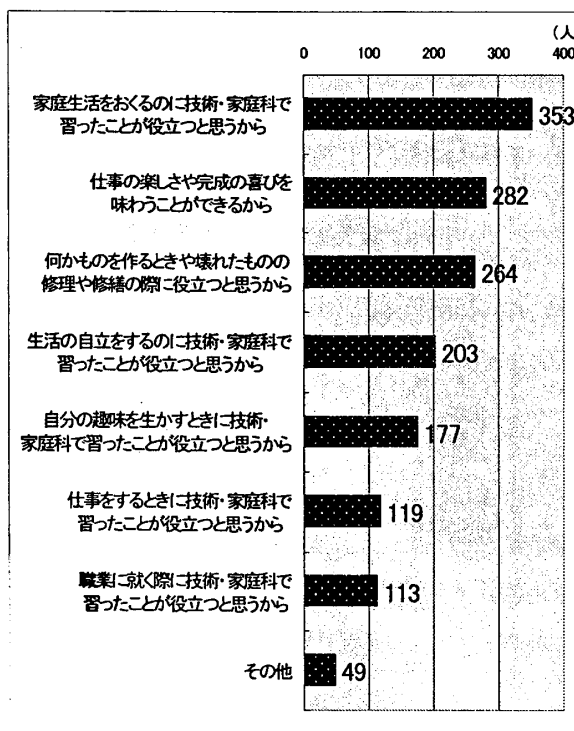


図7-2 技術・家庭科の学習は大切だと思う理由

ウ 技術・家庭科の教科観(役立った経験)

「役立った」と回答した保護者は67.9%であるのに対し、「なかった」と回答した保護者は5.7%であった。(図8-1)

次に「役立つことがあった」と回答した394人に「どのような時に役立ったか」を尋ねた。その結果、「ものづくりをしたとき」が203人、「(調理や掃除、洗濯など)家事を行うとき」196人、「壊れたものを修理や修繕したとき」194人と続く、反対に「日常生活に必要なものを購入するとき」54人、「家族とその生活について考えるとき」77人が少なかった。(図8-2)

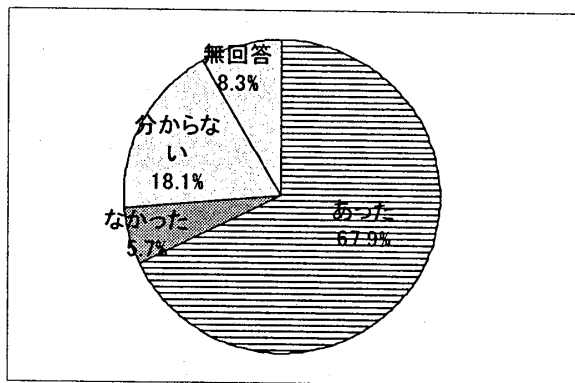


図8-1 技術・家庭科の学習内容

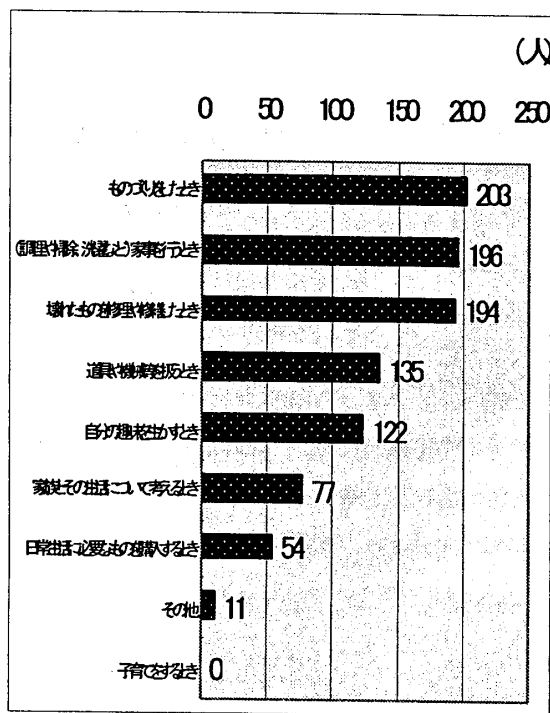


図8-2 どのように役立ったか

エ 身に付いた(と思われる)資質や能力

「自分でもものをつくる(製作する)ことのすばらしさがわかった」284人、「仕事の楽しさや完成の喜びを味わうことができた」263人、「自分で何かものを作るようになった」230人、「自分で何かものを修繕・修理しようと思うようになった」198人と続く。(図9)

中学生と比較してみると、「自分でもものをつくることのすばらしさがわかった」、「仕事の楽しさや完成の喜びを味わうことができた」がともに上位にあることがわかる。その反面、生徒同様「手先が器用になった」、「道具を使うことに自信が持てるようになった」等の技能面が身に付いたという意識は低い傾向にある。

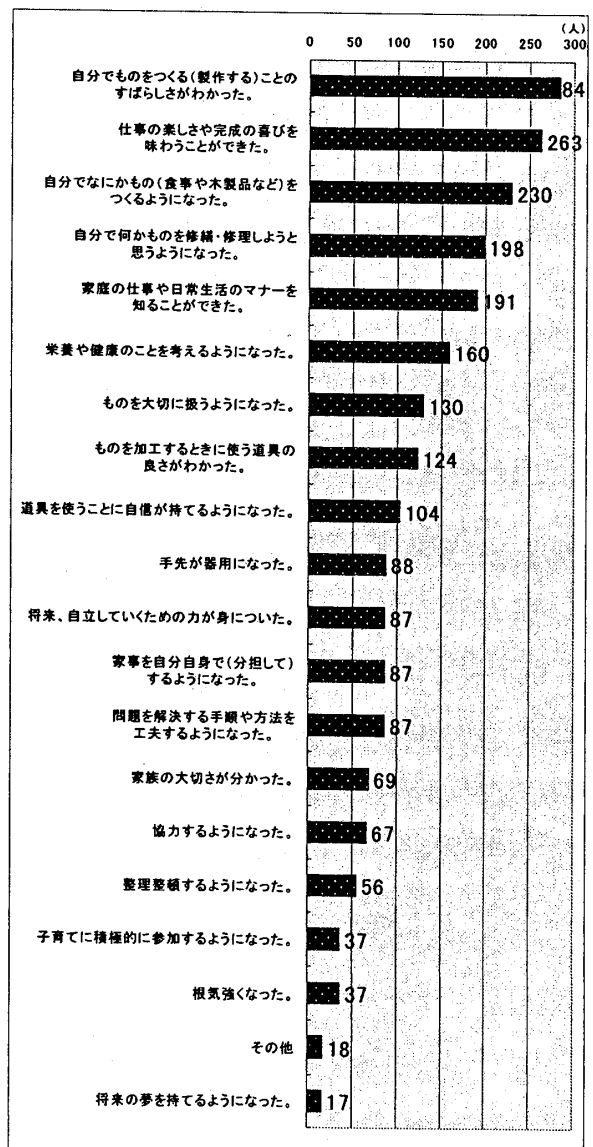


図9 身に付いた(と思われる)資質や能力

オ 技術・家庭科で製作した作品の活用状況

(ア) 技術・家庭科で製作した作品

技術分野の製作物は、「本立て」が最も多く、次いで「いす(折りたたみいす)」、「ちりとり」「蛍光灯」等の順に多い。家庭分野(被服)については「パジャマ」、「ブラウス」、「スカート」「エプロン」「スモック」の順に多かった。

(イ) 製作物の利用経験とその理由

次に製作した作品を家庭で利用した経験について尋ねた。529人中353人(66.7%)の保護者が利用したと回答している。今回、食物で学習した内容のみを家庭で作ったと回答した場合は除外した。

利用した経験者の理由について自由記述をもとに以下のように分類した。

表3 製作品を家庭で利用した理由

- | |
|-------------------------------|
| 1 自作したものだから…81人。 |
| 2 実用的で家庭で便利に利用できるものだったから…39人 |
| 3 よくできた(うまくできた。丈夫にできた。)から…35人 |
| 4 家にその製品がなかったから(必要だったから)…13人 |
| 5 その他 |

表4 「自作したものだから」に分類した自由記述例

- | |
|--|
| ・自分で作成した物に愛着があったから。 |
| ・自分自身で作ったものはうれしくて利用していた。 |
| ・自分が作った物だから買った物よりも暖かさがあり温もりがある。 |
| ・自分で頑張って作った作品なので利用した。 |
| ・苦手で作ったものだから何回でも利用して無駄にしたくなかった。 |
| ・苦労して作成したので利用しました。 |
| ・うれしくて友だちと作ったワンピースを着て、遊びに出かけ、写真を撮ったのを良く覚えています。 |
| ・手作りしたことで親しみ感や世界でたった一つの作品というイメージを持た。 |

表5 「実用的で家庭で便利に利用できるものだったから」に分類した自由記述例

- | |
|---------------------------------------|
| ・本立ては利用性があったので。(機能的だったから) |
| ・日常的に使えるものだったから。 |
| ・実用的な作品だったから。 |
| ・本立ては家でも使えるものとしてサイズなども測って作ったように覚えている。 |
| ・エプロンは実用的でかわいいのが出来たので大切に使いました。 |

表6 「よくできた(うまくできた。丈夫にできた)から」に分類した自由記述例

- | |
|--|
| ・代表で展示されるほど上手に出来た事と自分の好きな布(毛糸)とデザインで作り、とても気に入っていたから。 |
| ・自分なりに上手にできたので着用しました。 |
| ・よくできて嬉しかったので。 |
| ・できのよかった物については利用しました。 |
| ・利用したのはしっかりできたから。 |
| ・出来上がりもよく十分使用できるものに仕上げる事ができたから。 |

(ウ) 製作物の現在の利用状況

今でも利用していると回答した保護者は、利用経験のある保護者353人中68人、利用経験者の約2割であった。(実家の親が使用中4人を含む)

表7 「今でも利用している」と回答した自由記述例

- | |
|--|
| ・自分で作った本立ては今でも子供が使っています。愛着があり処分する事ができないでいます。 |
| ・決して出来の良い作品ではありませんが、今だに処分する事ができないのは、「この所は糸のこで形を作るのにたいへんだった」とか、くぎの穴が残っている所はくぎうちがうまくいかず、やり直したあと思い出があるから。 |
| ・便利だし、記念の作品だから、現在も使っている。(記念になるし、自分が当時精魂込めて作った作品だし、生きた証でもある。) |
| ものを作る喜びを感じ、作品が完成し、感動した。 |
| ・今でも実家の父が使っています。 |

(エ) 利用しなかった理由

表8 利用しなかった理由

<p>・うまくできなかったから、作品の出来がよくなかったから等の作品の仕上がりに満足いかなかった理由によるもの。</p> <p>・(インターホン等)必要がなかったから、あまり実用的でなかったから等の必要性や実用性を感じない理由によるもの。</p> <p>・自分の好きなデザインではなかったから。</p> <p>・製作するもののデザインが統一されたもので、自分の好みにデザイン変更ができなかった。</p> <p>・サイズが合わなかった、製品が完成しなかったから、すぐに壊れたから等未完成であったため。</p>

今回の調査では、自分で苦勞して製作したものへの思い入れや愛着がある回答が多く寄せられた。

「自分で苦勞して製作したもの」「実用的な製品」「よくできた作品」には深い愛着を感じている。全保護者のうち12.9%の保護者は、卒業後数十年経っても持ちつづけ、使いつづけている。

利用しなかった理由からは、「上手にできなかった。」「最後まで仕上がらなかった。」「キット化されたもので、デザイン等が同一でオリジナリティがなかった。」等の意見が多かった。

4. まとめ

平成14年4月から小・中学校において新学習指導要領が完全実施された。技術・家庭科にあっては、今回の改定により今まで「木材加工」、「電気」、「家庭生活」、「食物」など11領域で構成されていた扱いを、「技術」及び「家庭」の2分野で構成することに改められた。技術分野は「A技術とものづくり」及び「B情報とコンピュータ」の2つの内容で構成し、家庭分野は、「A生活の自立と衣食住」、「B家族と家庭生活」の2つの内容で構成され、大きく学習内容の統合が図られた。¹⁾

そこで、新学習指導要領の内容を履修した3年生600名とその保護者529名を対象に本教科に関する意識調査^{2) 3)}を実施し、生徒及び保護者の本教科に対する教科観について探ってみた。

本調査の結果明らかになったことを要約すれば、下記のとおりである。

- (1)中学生、保護者ともに技術・家庭科は好かれている。
- (2)学習内容については、「本立てやCDラック等の製作」、「日常食の調理」、「幼児向けのおもちゃの製作や幼児との直接的な触合い」等の実習や作業ををともなった学習内容、また、「動画や音声などのマルチメディア素材を生かした情報の処理」、「動く模型やロボットの製作」など発展的な内容にも興味を抱いている生徒が多かった。反面、「技術が生活の向上に果たしてきた役割と環境保護に配慮した技術の活用について」、「コンピュータを活用する上での個人情報や著作権について」、「栄養素の働きとバランスのよい食事について」、「家族の立場や役割と家族関係をよりよくする方法について」等の調べたり、思考する場面の多い学習内容については興味・関心が低い傾向にあることがわかった。
- (3)学習内容について、理解していると回答した生徒は約8割。2割強の生徒が「わからない」と回答しており、評価及び指導法の工夫、改善がより一層求められていると思われる。
- (4)生徒は「技術・家庭科の学習を通して、生生活をしていく上で必要な「知恵」や「技術」を身に付けたい。」また、「技術・家庭科の学習は将来の生活に役立つ」と考えている。また、「技術・家庭科の授業は実験・実習が多いから楽しい。」と感じ、コンピュータなどの最新の技術を学習したいと考えている。
- (5)「技術・家庭科を学習することは大切だ」と感じている生徒は81%、保護者は94%であつ

た。より生活体験の豊富な保護者の方が大切だと感じている割合は高い。理由についても「生活の自立をするのに、日常生活や仕事をするとときに役立つ」、「仕事に就くときに役立つ」との回答が多かった。技術・家庭科を生活に役に立つ教科と考えている傾向があることが伺える。

(6)技術・家庭科の学習を通して身に付いたと感じている資質や能力は、生徒、保護者とも「自分でものをつくることのすばらしさの理解」、「仕事の楽しさ、完成の喜び」をあげている。技術・家庭科の授業を通して、学習や仕事に対する達成感や自己に対する有能感を感じていることがわかる。

Summary

The purpose of this paper is to verify the role and significance of technology education and homemaking education in junior high school. So, we requested that the 3rd graders in junior high school in Tochigi Prefecture and their protectors filled in some questionnaires about the opinion poll on this subject.

The summary is as follows ; (1)the opinions, feelings and image of students and their protectors on this subject are cleared, (2)they are conscious that this subject are very meaningful and useful for social and family life, (3)we must make various improvements from now on in the teaching methodology and evaluation method of this subject.

Key Word:Tochigi Prefecture , Junior high school, Technology and homemaking education, Opinion poll, Attitude toward subject, Usefulness of subject, Acquired nature and Ability

参考文献

- 1)文部科学省:中学校学習指導要領 解説一技術・庭編一, 東京書籍 (平成11年).
- 2)三山裕久 向山玉雄:中学生の教科意識, 技術教室, 産業教育研究連盟, PP48~53, 50~55, 50~55 (2002年3月, 4月, 5月).
- 3)1994年度 「モノグラフ 中学生の世界」 Vol 48 教科観 第6章 ベネッセ
- 4)栃木県教育委員会:学力向上ハンドブック, 平成16年3月.
- 5)田口浩継:学習意欲を高め「確かな学力」を育成する学習指導の在り方 [技術・家庭], 中等教育資料, 平成16年7月号.

付録1

調査票(中学生用)

男 女

この調査は、技術・家庭科に対する意識について調べるものです。思ったことをそのまま回答してください。大きな質問項目は①～④の全部で4問あります。
 ・回答は原則として、質問の右側にある□内に、一つだけ選んで記入することになっていますが、選ぶ数が決められているものやいくつ選んでもよいところがあります。
 ・名前は書かないでください。

① 次のそれぞれの項目について、あてはまるものを一つ選んで、右の□にその番号を入れてください。

(1) 技術・家庭科は好きな教科ですか。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

(2) 技術・家庭科の学習内容はよくわかりますか。

- 1 よくわかる 2 だいたいわかる
3 わからないことが多い 4 ほとんどわからない

(3) 技術分野(ものづくり、情報とコンピュータ)の学習内容はよくわかりますか。

- 1 よくわかる 2 だいたいわかる
3 わからないことが多い 4 ほとんどわからない

(4) 家庭分野(生活の自立と衣食住、家族と家庭生活)の学習内容はよくわかりますか。

- 1 よくわかる 2 だいたいわかる
3 わからないことが多い 4 ほとんどわからない

(5) 次の技術・家庭科の学習内容は好きですか。(⑤、⑥の学習内容について、学習していない場合は、学習してみたいと思うかどうかについてお聞きします。)

【技術とものづくり】

① 技術が生活の向上に果たしてきたことについて知り、省エネルギーや環境保護に配慮した技術の活用について考える。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

② 木材や金属、プラスチック等、材料の特質を生かした作品の設計をする。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

③ 工具や工作機器を上手に使うことで本立やCDラック、小物入れなどの生活に役立つものを製作する。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

④ 工作機器がどのようにして動いているかを調べ、それらを安全に利用するための保守点検を行う。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

⑤、⑥について、学習していないかどうかわからない場合には、内容について先生に確認してください。(以下も同様です。)

⑤ 動く模型やロボットを製作したり、扇風機や洗濯機など電気機器の分解、組立て等の実習を行う。

- 1 好き(学習してみたい)
2 どちらかといえば好き(学習してみたい)
3 どちらかといえば好きではない(学習したくない)
4 好きではない(学習したくない)

⑥ ナスやトマトなどの野菜、菊やシクラメンなどの草花を栽培する。

- 1 好き(学習してみたい)
2 どちらかといえば好き(学習してみたい)
3 どちらかといえば好きではない(学習したくない)
4 好きではない(学習したくない)

【情報とコンピュータ】

① コンピュータが生活のなかでどのように利用されているのかを知り、コンピュータを活用する上で個人情報や著作権等どうすればよいのかを考える。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

② コンピュータはどのようなもので構成され、コンピュータで仕事をするためにはどのようなソフトウェアが必要なのかを学ぶ。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

③ コンピュータや必要なソフトウェアを利用して案内状を作成したり、図面をかいいたり、家計簿の計算をしたり、データを整理したりする。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

④ 閲覧ソフトを利用してインターネット上の情報を集めたりメールソフトを利用して情報を発信する。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

⑤ デジタルビデオやデジタルカメラで撮影した動画、画像や音声等のデータを生かしたWeb(ホームページ)やプレゼンテーションを制作する。

- 1 好き(学習してみたい)
2 どちらかといえば好き(学習してみたい)
3 どちらかといえば好きではない(学習したくない)
4 好きではない(学習したくない)

⑥ プログラムを作成し、ロボットや動く模型などをコントロールする。

- 1 好き(学習してみたい)
2 どちらかといえば好き(学習してみたい)
3 どちらかといえば好きではない(学習したくない)
4 好きではない(学習したくない)

【生活の自立と衣食住】

① 栄養素の働きを知り、バランスの良い食事について考える。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

② ハンバーグステーキや魚のムニエルなどの日常食の調理をする。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

③ 衣服のコーディネート(調和のとれた組み合わせ)を考えたり、洗濯やしみ抜きなどの実習をする。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

④ 室内の汚れを考えて清掃をしたり、家族が気持ちよく住むための部屋の工夫を考える。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

⑤ 地域の食材を生かして調理を工夫したり、お年寄りや地域の人々との会食の計画を立てて実践する。

- 1 好き(学習してみたい)
2 どちらかといえば好き(学習してみたい)
3 どちらかといえば好きではない(学習したくない)
4 好きではない(学習したくない)

⑥ ショートパンツやシャツなどの簡単な日常着の製作をする。

- 1 好き(学習してみたい)
2 どちらかといえば好き(学習してみたい)
3 どちらかといえば好きではない(学習したくない)
4 好きではない(学習したくない)

【家族と家庭生活】

① 自分の成長を振り返り、家族やまわりの人々がどのように自分を支えてくれたか考える。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

② 幼児の心身の発達の特長について知り、子どもが家族の中でどのように育つか考える。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

③ 家族の互いの立場や役割について知り、家族関係をよりよくするための方法を考える。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

④ 通信販売の利点や問題点を考えたり、環境に配慮した商品の購入や使い方について勉強する。

- 1 好き 2 どちらかといえば好き
3 どちらかといえば好きではない 4 好きではない

⑤ 幼児の遊び道具を製作したり、幼稚園や保育所へ行って幼児と触れ合う。

- 1 好き(学習してみたい)
2 どちらかといえば好き(学習してみたい)
3 どちらかといえば好きではない(学習したくない)
4 好きではない(学習したくない)

⑥ 環境に配慮した生活について、自分や家族を振り返り問題点を見付け、より良い方法を考え、実行する。

- 1 好き(学習してみたい)
2 どちらかといえば好き(学習してみたい)
3 どちらかといえば好きではない(学習したくない)
4 好きではない(学習したくない)

付録2

調査票(保護者用)

【実施上の留意点】

この調査は、技術・家庭科に対する意識について、調べるものです。
あはまること、思ったことをそのまま回答してください。
・質問は全部で7問あります。
・回答は原則として、質問の右側にある□内に、一つだけ選んで記入することになっていますが、選ぶ数が決められているものやいくつ選んでもよいところがあります。
・名前は書かないでください。

1 次のそれぞれの項目について、あてはまるもの一つを選んで、右の□にその番号を記入してください。

(1) 性別

1 男	2 女
-----	-----

 (1)

(2) 年齢

1 25~29才	2 30~34才
3 35~39才	4 40~44才
5 45~49才	6 50~54才
7 その他()	

 (2)

(3) 中学時代に技術・家庭科を習ったことを覚えていますか
1 覚えている 2 覚えていない (3)

(4) 中学時代に習ったのは技術ですか家庭ですか。
1 技術だけ 2 主に技術 3 家庭だけ
4 主に家庭 5 覚えていない (4)

2 中学校の技術・家庭科の授業で作った作品(製品)を、下の例を参考に記入ください。
また、それらの作品を家庭で使用したことがあるものは、○で囲んでください。
(栽培の学習については栽培した植物を、調理については料理名を記入し、卒業後も栽培した、調理したことがあるものを○で囲んでください。)

例

本立て	折りたたみイス	ちりとり
栽培で学習した菊の三本仕立て	蛍光灯	

製作した作品名(家庭で利用経験があるものには○を)

参	木材加工	本立て、折りたたみイス、踏み台等
考	金属加工	ちりとり、鉛筆立て、ドライバー等
	電 気	ランジスタラジオ、蛍光灯 等
	機 械	動くおもちゃ 等
	被 服	ショートパンツ、シャツ、パジャマ等
	食 物	ハンバーグ、ムニエル、カレーライス 等
	保 育	おもちゃ 等

2-1 中学で製作した作品を家庭でも「利用した。」または、「利用しなかった。」のはどうしてですか。

3 中学校の技術・家庭科の授業で作った作品(製品)について、現在でも 持っている、使っているものがあれば、その作品名をお書きください。(栽培や調理の学習では、今でも栽培している植物、野菜名や今でもよく調理する料理名をお書きください。)

3-1 中学で製作した作品を今でも持っている(最近まで持っていた)のは、どうしてですか。作品への思い入れなどについてお書きください。

4 技術・家庭科は好きな教科でしたか。あてはまるもの一つを選んで、右の□にその番号を記入してください。

1 好きだった 2 どちらかといえば好きだった
3 どちらかといえば好きではなかった 4 好きではなかった (4)

4-1 「好きだった」「どちらかといえば好きだった」と回答した人だけお答えください。
技術・家庭科が好きだった理由は何ですか。あてはまる項目をすべて選んで、右の□に○を付けてください。

①	木材加工や金属加工、被服、食物、家庭生活などの学習する内容	<input type="checkbox"/>
②	技術・家庭科の学習は、実験や実習が多いから	<input type="checkbox"/>
③	生活に生かす技術や知識を身に付けることができるから	<input type="checkbox"/>
④	グループ学習で互いに協力し合いながら学習できるから	<input type="checkbox"/>
⑤	木材や金属を利用したものづくりや被服の製作、調理実習等ができたから	<input type="checkbox"/>
⑥	トランジスタやエンジン、コンピュータなど最新の技術を勉強できたから	<input type="checkbox"/>
⑦	身体を動かして作業するのが好きだから	<input type="checkbox"/>
⑧	先生の教え方	<input type="checkbox"/>
⑨	ものづくりが好きだから	<input type="checkbox"/>
⑩	その他	<input type="checkbox"/>

5 技術・家庭科を勉強することは大切だと思いますか。あてはまるものを選んで、右の□にその番号を記入してください。

1 思う 2 どちらかといえば思う
3 どちらかといえば思わない 4 そう思わない (5)

5-1 「そう思う」「どちらかといえば思う」と回答した人だけお答えください。

技術・家庭科を勉強することは大切だと思う理由について、あなたの考えにあてはまる項目をすべて選んで、右の□に○を付けてください。

①	職業につく際に技術・家庭科で習ったことが役立つと思うから	<input type="checkbox"/>
②	仕事をする時に技術・家庭科で習ったことが役立つと思うから	<input type="checkbox"/>
③	何かものを作るときや壊れたものの修理や修繕の際に役立つと思うから	<input type="checkbox"/>
④	自らの趣味を生かす時に技術・家庭科で習ったことが役立つと思うから	<input type="checkbox"/>
⑤	家庭生活をおくるのに技術・家庭科で習ったことが役立つと思うから	<input type="checkbox"/>
⑥	生活の自立をするのに技術・家庭科で習ったことが役立つと思うから	<input type="checkbox"/>
⑦	仕事の楽しさや完成の喜びを味わうことができるから	<input type="checkbox"/>
⑧	その他に何か理由がありましたら記述してください。	<input type="checkbox"/>

6 今までに技術科で習ったことが役立つことがありましたか

① あった ② なかった ③ わからない (6)

6-1 「あった」と回答した人だけお答えください。

技術・家庭科で習ったことは、どのような時に役立ちましたか。役立ったと思う項目をすべて選んで、右の□に○を付けてください。

①	ものづくりをしたとき	<input type="checkbox"/>
②	壊れたものを修理や修繕したとき	<input type="checkbox"/>
③	道具や機械等を扱うとき	<input type="checkbox"/>
④	自分の趣味を生かすとき	<input type="checkbox"/>
⑤	(調理や掃除、洗濯など)家事を行うとき	<input type="checkbox"/>
⑥	日常生活に必要なものを購入するとき	<input type="checkbox"/>
⑦	家族とその生活について考えるとき	<input type="checkbox"/>
⑧	子育てをするとき	<input type="checkbox"/>
⑨	その他の理由がありましたら記述してください。	<input type="checkbox"/>

7 技術・家庭科を学習したことで、どのような態度や能力が身に付きましたか。また、態度や能力が身に付くきっかけができたと思いますか。あてはまる項目をすべて選んで、右の□に○を付けてください

(1)	自分でものをつくる(製作する)ことのすばらしさがわかった。	<input type="checkbox"/>
(2)	ものを加工する時に使う道具のよさがわかった。	<input type="checkbox"/>
(3)	道具を使うことに自信が持てるようになった。	<input type="checkbox"/>
(4)	仕事の楽しさや完成の喜びを味わうことができた。	<input type="checkbox"/>
(5)	将来、自立していくための力が身についた。	<input type="checkbox"/>
(6)	家庭の仕事や日常生活のマナーを知ることができた。	<input type="checkbox"/>
(7)	家族の大切さがわかった。	<input type="checkbox"/>
(8)	子育てに積極的に参加するようになった。	<input type="checkbox"/>
(9)	手先が器用になった。	<input type="checkbox"/>
(10)	自分でなにかもの(食事や木製品など)をつくるようになった。	<input type="checkbox"/>
(11)	自分でなにかものを修繕・修理しようと思うようになった	<input type="checkbox"/>
(12)	栄養や健康のことを考えるようになった。	<input type="checkbox"/>
(13)	ものを大切に扱うようになった。	<input type="checkbox"/>
(14)	家事を自分自身で(分担して)するようになった。	<input type="checkbox"/>
(15)	根気強くなった。	<input type="checkbox"/>
(16)	整理整頓するようになった。	<input type="checkbox"/>
(17)	将来の夢を持てるようになった。	<input type="checkbox"/>
(18)	協力するようになった。	<input type="checkbox"/>
(19)	問題を解決する手順や方法を工夫するようになった	<input type="checkbox"/>
(20)	その他	<input type="checkbox"/>